

平素は工業会の活動にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。

今月、日経平均株価が4万円の大台を超えバブル期以降の高値を更新しました。実体経済との差はあるように感じていますが今後どのような値動きになるのか気になるところです。また過ごしやすい季節となり、桜の開花も各地でちらほら、花粉症の方は十分に気を付けてお過ごしください。

さて3月号では技能実習評価試験、安全衛生委員会主催の危険体験・体感教育研修会、理事会報告、用途開発委員会勉強会の報告をお届けさせていただきます。

《技能実習評価試験》

1月16日（火）西日本会場（日本ウエスト 第一工場）にて10名の受験生による初級技能実習評価試験が開催されました。内訳はベトナム人8名、フィリピン人2名。

結果は受験者全員合格でした。学科試験で合格点数ギリギリの人もいましたが受験者皆さんの合格で安堵の笑顔が見られて良かったです。

1月23日（火）東日本会場（関商店）にてベトナム人3名、カンボジア人3名と、1月26日（金）九州会場（高野環境）にてベトナム人7名も受験され、全員無事合格されました。



《危険体験・体感教育研修会》

2月7日、21日に安全衛生委員会主催による危険体験・体感教育研修会が兵庫県加古川市のコベルコビジネスパートナーズ(株)加古川技術研修センターにて開催されました。今回ご厚意で、RPF工場向けとして通常行っている内容から、フォークリフトの巻き込まれ、機械への巻き込まれ、挟まれをチョイスしていただいた講習を行いました。参加者は7日22名、21日22名、計13社44名です。

綾仁委員長挨拶

我々の業界でまだまだ人間の手による工程が多くあり作業を行う人々の安全に対する意識の向上が大変重要です。今回の講習で実際に危険を体感し実感いただき会社に戻られた際には一緒に働く仲間にはしっかりと伝えて活かしていただき安全で楽しい職場になるようお願いいたします。



研修内容は下記の通りです。

1) 座学

災害発生の仕組み

ヒューマンファクターとは

これからの災害防止

2) 体験教育

フォークリフトの死角認識体験

フォークリフト車体巻き込まれ体験

(急ハンドル操作・後輪への巻き込まれ体験)

フォークリフト積荷飛散・落下体験

油圧機による挟まれ、巻き込まれ体験

(センサー故障時体験・自分が巻き込まれたらこんな音がする体感)

空圧機械への挟まれ

(油圧機械との動作の違い、残圧動作、体験、停電時の空圧機器動作体感)



研修を受け、ルール、手順を守る大切さと危険を知る、学ぶ、覚えることの大切さを再認識することができたと思います。講師の西田様が「人は聞いたことは忘れる。見たことは覚える。体験したことは考えるものです。職場内で日々発生しているであろうヒヤリハットを抽出し職場の皆さんと一緒に一つ一つ確実に修正していくことが事故を減らすのに一番有効」との言葉が印象に残りました。全産業において死亡事故は減少してきていますが休業を伴う怪我は増加傾向が見られます。知識、経験不足からくる不安全行動、ヒューマンエラーをなくすためにも受講された皆さんが自社内で後輩や部下に体験を伝承し手本となってもらえればと思います。



《理事会報告》

2月16日(金) 15:00よりエッサム神田ホール1号館にて令和5年度第3回理事会を開催しました。

議題は下記の通りです。

議題1 令和5年度予算実績概算報告

議題2 環境展出展について 5/22~24 東京ビッグサイトにて

議題3 第12回定時社員総会について 6/13(木) 明治記念館にて 15:30~開始予定

議題4 理事会内規について

議題5 台湾とのバイオマス技術提携について

《用途開発委員会 第2回勉強会》

日 時 : 2024年3月13日(水) 13:00~16:00 WEB方式

参加者 : 36名

第1部 : 「総合商社化学品営業支店でのプラスチック資源循環の在り姿と RPF の位置付け」

講 師 : 三井物産株式会社ベーシックマテリアル事業本部 サークュラーエコノミー推進室
野部哲也様

第2部 : 「Scope3 および CFP の概要と企業が取り組む意義について」

講 師 : アスエネ株式会社 営業本部 金子尊哉様

第3部 : 「省エネ法、温対法の改正による RPF GHG 排出係数の影響と同係数改訂の方向性」
(国家インベントリ絡み)

講 師 : 株式会社関商店 RPF 企画開発室 吉武和広様

要 約 : 年度末の忙しい中、用途開発委員会勉強会はウェブ方式で行い 36 名の参加を頂きました。

第1部は当会賛助会員で用途開発委員会に所属し、RPF GHG 排出係数見直し分科会でご活躍頂いております三井物産の野部様に総合商社視点での RPF の在り姿についてご講演頂きました。第2部は株式会社アスエネの金子様から Scope 算出方法、プログラムの説明や CFP の取り組み方法などを講演頂きました。第3部は用途開発委員会副委員長で関商店の吉武様から GHG 見直し部分科会の今年度の活動報告を中心に各改正法令や国家インベントリとの整合性等の講演を頂きました。

先ずは我々が製造する R P F の効果を正しく理解し、Scope3 を把握しサプライチェーン全体で地球温暖化ガス削減に貢献できることをアピールして、ケミカルリサイクルが実装された際には経済的合理性も勘案して供給体制を整えられるように準備して参りたい。

(文責 ; 総務広報委員長 加山順一郎)

編集制作:総務広報委員会発行:一般社団法人日本RPF工業会

令和6年3月吉日

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-2 高梨ビル5階

TEL:03-6206-8000

FAX:03-5296-0303

<http://www.irpf.gr.jp>